

14 海の豊かさを
守ろう17 パートナーシップで
目標を達成しよう

2026年3月18日

株式会社 ちゅうぎんフィナンシャルグループ

『胸上浜（玉野市）』が自然共生サイトに認定

— 瀬戸内渚フォーラムを通じた自然資本の保全と持続可能な地域づくり —

ちゅうぎんフィナンシャルグループ（岡山市 社長 加藤 貞則）では、瀬戸内海の環境保全プロジェクト『瀬戸内渚フォーラム』に参画し玉野市胸上浜の藻場保全・回復や環境教育に取り組んでいます。

このたび、胸上漁業協同組合（玉野市 組合長 國屋 利明）、株式会社イノカ（東京都文京区 代表取締役 CEO 高倉 葉太）、瀬戸内渚フォーラム（主催 株式会社イノカ）と共同で申請した玉野市胸上浜に関する活動計画が地域生物多様性増進法（※）にもとづき認定され、『胸上浜』が『自然共生サイト』となりました。なお、本認定は玉野市内での初めての事例となります。

玉野市胸上浜は豊富な海産資源を誇っていましたが、藻場が急激に減少し、漁獲量の減少や魚種の変化が起きています。当社グループでは2024年5月から胸上漁業協同組合と連携した環境教育活動を始め、2024年9月に瀬戸内渚フォーラムが組成されて以降は藻場回復に向けた調査や情報発信へと取り組みを広げています。

本認定により、玉野市胸上浜における海洋環境の変化を広く知っていただくとともに、藻場を起点にした環境回復に向けたヒト・モノ・カネの循環を推進することで、地域の持続的発展と当社グループのサステナビリティ経営につなげてまいります。



胸上浜



（※）環境省では、陸と海のそれぞれ30%以上の環境を保全する「30by30」目標の達成を目指しており、「地域生物多様性増進法」にもとづき、策定した実施計画が認定されることで、その活動対象区域が「自然共生サイト」（民間が取組む自然保全活動区域）となります。

■計画概要

計画名	胸上浜藻場調査計画（回復タイプ）	 <p>▲アマモの花芽</p>	 <p>▲アマモの表面についたウミナメクジの卵</p>
期間	2026年3月～2031年3月		
申請者	胸上漁業協同組合	 <p>▼アマモの葉の上に巣を作るカマキリヨコエビ科の一種</p>	
共同申請者	ちゅうぎんフィナンシャルグループ、株式会社イノカ、瀬戸内渚フォーラム		
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖海域の栄養塩やアマモ場が減少 ・アマモの種まきを10年以上実施しているが定着していない 		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・胸上漁協の漁獲高の令和6年度比15%増加 ・区域内のアマモ場の被度を現状の3%から20%へ増加 		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アマモの種まき ・年2回のフィールド調査 ・海ごみ回収、地域内外を対象とした教育イベント、勉強会の実施 		

■株式会社イノカ

2019年創業の自然環境の総合的プロフェッショナル集団。海洋・淡水の生態専門家、環境ビジネスの専門家が在籍。「人類の選択肢を増やし、人も自然も栄える世界をつくる。」をミッションに、産官学と連携して自然関連の新規事業創出をおこなう。

（株式会社イノカ HP：<https://corp.innoqua.jp>）

■瀬戸内渚フォーラム

企業・大学・自治体など、瀬戸内海に関係する多様なステークホルダーが集結し、瀬戸内海において人と海が共存する地域循環型社会のモデルケースの創出を目指し、藻場の保全・回復活動や教育活動をおこなうプロジェクト。（主催 株式会社イノカ）

（瀬戸内渚フォーラム HP：<https://setouchi.nagisa.innoqua.jp>）

以 上

本件に関するお問い合わせ先（TEL 086-223-3110）
 サステナビリティ推進部 井上（TEL 086-234-6351）
 広報センター 岡嶋（内線2255）